

# 対ウルグアイ東方共和国 国別開発協力方針

2021年5月

## 1 当該国（地域）への開発協力のねらい

南米大陸南東部に位置するウルグアイは、南米で最も民主主義が確立した国のひとつであり、政治的及び社会的に安定している。農牧林業を主要産業とし、肉類、セルロース、大豆、米等を輸出している。人口約349万人と小国ながら、地域大国であるブラジルとアルゼンチンに挟まれた地理的利点を活かし、港湾やフリーゾーン等の整備による地域的ハブ機能の拡大を進め、自由貿易の推進など自由で開かれた経済政策を展開してきた結果、安定した経済成長を達成してきている。我が国とは、2017年4月に投資協定が発効し、今後の更なる日本企業の進出が期待される。

一方で、同国では、農村部及び首都モンテビデオ郊外を中心に、住民が貧困から脱却できず格差が是正されていない。また、洪水や干ばつの頻度が増加する等、近年顕著になっている気候変動が、農牧林業部門や、水力発電が同国の電力供給の大半を占めるエネルギー部門等に深刻な影響を及ぼしつつある。さらに、首都圏における廃棄物管理や河川の水質汚濁等の環境問題が開発課題として残されている。こうしたことから、持続可能な開発目標（SDGs）や「質の高い成長」を実現するための支援が必要とされている。また、近年ウルグアイでは、民間投資によるため池の促進を目的とした灌漑法を2017年に成立させるなど、民間セクターによる経済・社会開発を重視し、持続可能な経済成長の実現を目指している。

ウルグアイ政府は、我が国による開発協力は、ニーズのあるところに極めて有効に実施されているとして高く評価しており、上記のような課題に対する支援を引き続き行い、同国の主要な開発課題の解決に貢献することで、同国との二国間関係が更に強固になることが期待される。

## 2 我が国のODAの基本方針（大目標）：質の高い成長のための支援

近年の経済成長により所得水準は高まっているものの、依然として存在する開発課題への対応を後押しするべく、格差是正の取組や環境・気候変動分野等の支援を通じ、包摂性、持続可能性及び強じん性を兼ね備えた質の高い成長に向けた支援を行う。また、同支援の成果はSDGs（特に目標10（格差是正）、目標13（気候変動対策）、目標17（実施手段））達成に影響・寄与することから、これらの目標との整合性を考慮しつつ、支援を実施する。

## 3 重点分野（中目標）

### （1）格差是正

社会的弱者（貧困層の女性及びその子供、青少年、障害者、高齢者等）に対する教

育・保健医療・社会福祉サービスの提供など同国の包摂的な開発を支援する。

## (2) 環境保全

ウルグアイでは、再生可能エネルギーをはじめとした供給源の多様化によるエネルギー供給の安定化に取り組んでおり、同国産業の環境と調和のとれた健全で持続可能な発展に資する関連分野の取組を後押ししていく。加えて、廃棄物管理や水質汚濁対策等、その他の環境・気候変動分野への支援も実施する。

## (3) 民間セクター開発

貿易投資環境の整備や観光の促進、アグリビジネスの振興等といった民間セクター開発を支援する。

## 4 留意事項

ウルグアイは OECD・DAC の援助受取国リストを卒業しており、現在、技術協力及び草の根・人間の安全保障無償資金協力が対ウルグアイ開発協力の中心的なスキームとなっている。今後とも、限られたリソースを有機的に組み合わせた形で協力していくことが重要。

また、ウルグアイは農牧林業が主要産業であり、同分野ではこれまでの日本の技術協力の支援等による経験・知見を有することから、今後は支援実施国として我が国との三角協力の展開を目指す。

さらに、日系社会との連携強化と親日・知日派の育成と活用を念頭に、日本語教育、武道、日本文化関連活動への支援、各種の留学・研修プログラムの活用、JICA 帰国研修員等の活動支援に留意する。

(了)

別紙： 事業展開計画